

「転職」の経済学

適職選択と人材育成

「日本型雇用システム研究委員会」(*主査)

*猪木 武徳 (大阪大学大学院経済学研究科教授) 伊藤 実 (日本労働研究機構主任研究員)
 佐分利応貴 (在エジプト日本大使館一等書記官) 下山 昭夫 (淑徳大学社会学部教授)
 龍井 葉二 (日本労働組合総連合会労働政策調整局長)
 富田 安信 (大阪府立大学経済学部教授) 中村 二郎 (東京都立大学経済学部教授)
 堀 春彦 (日本労働研究機構副主任研究員) 守島 基博 (一橋大学大学院商学研究科教授)
 勇上 和史 (倉敷芸術科学大学芸術学部助手) ほか

連合総研は、「日本型雇用システム研究委員会」(猪木武徳主査)を設置し、従来の日本型雇用システム論を整理しつつ、経済社会環境の変化に対応したこれまでのシステムの長所をなるべく損なわない形での新しい雇用システムのあり方、そしてその実現のために労働者に求められているもの、労働組合、企業、政府の果たすべき役割を探ることとした。

こうした課題の解明のためには、まず、現在生じている変化は何か、「日本型雇用システム」の実態とは何か、という事実の把握が重要である。このため、研究委員会では、1999年6月~8月に日本の雇用システムの下での人材育成・活用実態と問題点を明らかにするために、転職行動も含めた労働者のキャリア形成の実態と意識について、企業及び労働者双方を対象に、『勤労者のキャリア形成の実態と意識に関する調査』を実施した。

本書は、当該調査の事実結果についての各委員の研究分析を中心として、「日本型雇用システム研究委員会」の成果をまとめたものである。離転職者の実態、日本の企業内人事処遇制度、労働者のキャリア形成等広範な論点について、データに基づく実証分析とそれから得られる政策課題の提起、個人の適職選択が可能となるために労働組合が果たすべき役割についての考察等を行っている。

目次

総論 離転職と人材育成

第Ⅰ部 離職と転職のプロセス

第1章 誰が企業を辞めるのか

第2章 離転職者の求職活動と再就職

第Ⅱ部 技能と賃金

第3章 仕事能力の高まりと賃金・役職の関係

第4章 転職時の技能評価

第5章 内部育成と中途採用のスパイラル的人材戦略

第Ⅲ部 満足度と外的要因

第6章 転職経験と満足度

第7章 企業規模と「歴史」からみた人材育成

展望 ミスマッチ解消と適職選択の課題